平成 30 年度
トップマネジメントセミナー ～未来に向けた挑戦～
受講報告

高瀬　洋

１．　受講日時

平成 30 年 10 月 15 日～10 月 16 日

２．　受講場所

全国市町村国際文化研修所（大津市）

３．　講義及び講師

「人口減少時代の大都市経営」
　神戸市長　久元　喜造氏

「“いいもの”を編む～気仙沼ニッティングの挑戦～」
　株式会社気仙沼ニッティング　代表取締役社長　御手洗　瑞子 氏

「街全体で人々を看守る新しいまちづくり～ＣＢＭＣヘルスケアイノベーションＩＷＡＯモデル～」
　京都大学経営管理大学院　特定教授、高齢社会街づくり研究所株式会社　顧問、医師・医学博士・ＭＢＡ　岩尾　聡士 氏

「知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略」
　近畿大学　総務部長　世耕　石弘 氏

４．　所　感

このセミナーは、全国の市町村の首長や部局の部長クラス・議員を対象とするものであるが、参加してみると全体の９割が議員であった。特定のテーマの講習ではなかったので、４人の講師のそれぞれの講義（講演）への所感を述べるのではなく、全体を通して感じたことを所感として報告する。

人口減少と高齢化率の上昇により、日本では 2025 年には 75 歳以上の人口割合が 16.7%（６人に１人）に転じるとの予測が出ている。平均寿命が約 85 歳なので、どういう状況かというと医療と介護の両方が必要な高齢者が増加するため、こういった状況に柔軟に対応できる仕組が必要となる。

年次	高齢者（65歳以上）割合 ※75歳以上を含む	75歳以上（後期高齢者）割合
平成22(2010)	22.5%	10.8%
平成27(2015)	26.0%	12.5%
平成32(2020)	27.8%	14.2%
平成37(2025)	28.7%	16.7%
平成42(2030)	29.6%	17.8%
平成47(2035)	30.9%	18.0%
平成52(2040)	33.2%	18.4%
平成57(2045)	34.7%	19.4%
平成62(2050)	35.7%	21.5%

表：後期高齢者（75 歳以上）の割合

この時代の波を先進国の中で最初に経験するのが日本で、世界各国は日本の動向に注目しているのだそうだ。なぜ、日本が世界で最初かというと、一つは世界でもトップクラスの長寿国となったことと、もう一つ、日本は移民を積極的には受入れていないため、アメリカ、イギリス、フランスといった国々よりも高齢化が急速に進む傾向にあるからだ。

このような、医療と介護が並行して必要となる高齢者が多い社会では、病院は医療面での処置をするところ、介護施設はリハビリや介護をするところというような縦割りではなく、一気通貫の対応ができる施設が必要である。例えば、病院で病気は治ったけれど入院中はベッドで過ごしたことが多くリハビリが不十分で、退院後に自宅で転んで再度入院というような状況が多発するからだ。これからの病院は、病気を治したら役割が終わったので、あとは自宅で療養してください、というのではなく、自宅に戻す前にリハビリや日常生活ができるようサポートする機能も併せ持つことが大切である。

現在、西脇病院でも全体で 320 病床の内、地域包括ケア病床が 47 床あり医療行為終了後の患者のリハビリ等のケアに役立っている。数年前、市議会で西脇病院において地域包括ケア病床を設けることを決めた時、病院の損益にはマイナスではないかと心配する気持ちもあったが、むしろ先々の時代のニーズから考えると望ましい選択であったのだと思い直した。また、病院の収益にもマイナスの影響が出ていないことを、先日の監査で確認し安心できた。

さて、近隣では三木市と小野市が共同で運営している北播磨総合医療センターの他、県立柏原病院なども稼働している。今後も近隣の市町による病院間の競争も激しくなることが予想される。西脇市に於いては、全職員の２／３近くが病院の職員であることも、余り認識されていないように思う。市民が健康で安心して暮らせるまちづくり、更には西脇市の未来のためにも病院経営の健全な維持に尽力しなければいけない。

以上